

データヘルス計画（第1期）

年次報告書

[平成29年度]

最終更新日：平成 30 年 09 月 25 日

東京西南私鉄連合健康保険組合

STEP 1 - 1 基本情報

組合コード	20579
組合名称	東京西南私鉄連合健康保険組合
形態	単一
業種	運輸業

	平成27年度	平成28年度	平成29年度
被保険者数 * 平均年齢は 特例退職被保 険者を除く	-名 男性-% (平均年齢-歳) * 女性-% (平均年齢-歳) *	92,450名 男性73.6% (平均年齢44.8歳) * 女性26.4% (平均年齢40.7歳) *	92,450名 男性73.6% (平均年齢44.8歳) * 女性26.4% (平均年齢40.7歳) *
特例退職被保 険者数	-名	0名	0名
加入者数	-名	164,617名	164,617名
適用事業所数	-カ所	301カ所	301カ所
対象となる拠点 数	-カ所	2,522カ所	2,522カ所
保険料率 *調整を含む	-%	95%	95%

		健康保険組合と事業主側の医療専門職					
		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)	常勤(人)	非常勤(人)
健保組合	顧問医	-	-	0	0	0	0
	保健師等	-	-	0	0	0	0
事業主	産業医	-	-	148	128	148	128
	保健師等	-	-	77	69	77	69

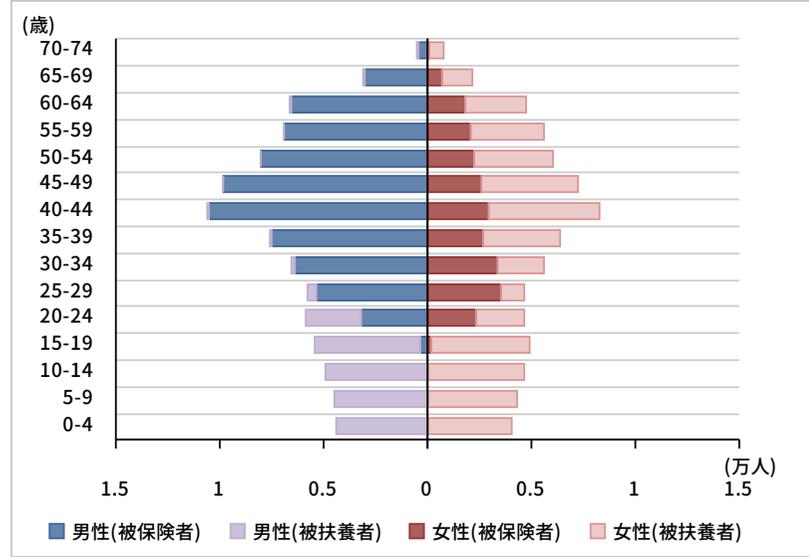
		平成27年度	平成28年度	平成29年度
特定健康診査実施率	全体	-%	71.4%	71.4%
	被保険者	-%	96.9%	96.9%
	被扶養者	-%	15.9%	15.9%
特定保健指導実施率	全体	-%	2.3%	2.3%
	被保険者	-%	2.3%	2.3%
	被扶養者	-%	0.0%	0.0%

		平成27年度		平成28年度		平成29年度	
		予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)	予算額(千円)	被保険者一人 当たり金額 (円)
保健事業費	特定健康診査事業費	-	-	27,030	292	27,030	292
	特定保健指導事業費	-	-	11,200	121	11,200	121
	保健指導宣伝費	-	-	26,258	284	26,258	284
	疾病予防費	-	-	1,095,240	11,847	1,095,240	11,847
	体育奨励費	-	-	0	0	0	0
	直営保養所費	-	-	0	0	0	0
	その他	-	-	0	0	0	0
	小計 …a	0	-	1,159,728	12,544	1,159,728	12,544
経常支出合計 …b	-	-	41,887,135	453,079	41,887,135	453,079	
a/b×100 (%)	-	-	2.77		2.77		

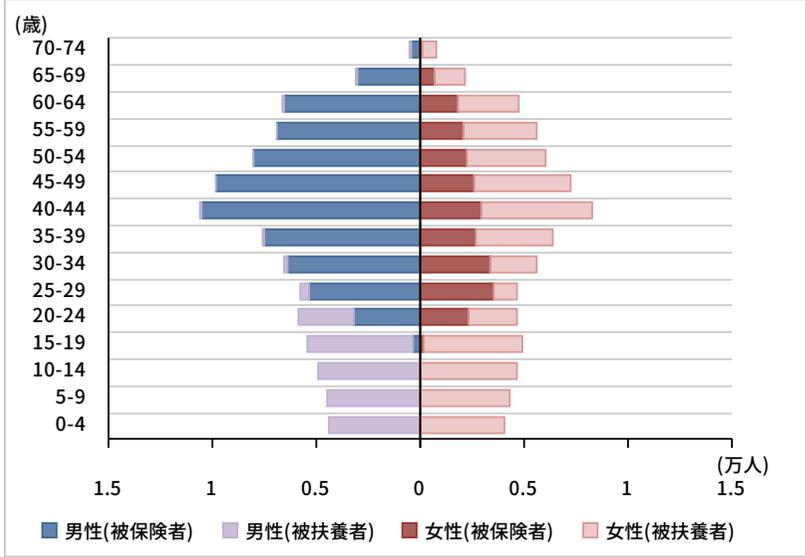
平成27年度



平成28年度



平成29年度



男性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	322人	10～14	0人	15～19	322人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	3,181人	25～29	5,360人	20～24	3,181人	25～29	5,360人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	6,358人	35～39	7,525人	30～34	6,358人	35～39	7,525人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	10,501人	45～49	9,814人	40～44	10,501人	45～49	9,814人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	8,042人	55～59	6,905人	50～54	8,042人	55～59	6,905人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	6,546人	65～69	3,030人	60～64	6,546人	65～69	3,030人
70～74	-人			70～74	426人			70～74	426人		

女性（被保険者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	0人	5～9	0人	0～4	0人	5～9	0人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	0人	15～19	132人	10～14	0人	15～19	132人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	2,346人	25～29	3,569人	20～24	2,346人	25～29	3,569人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	3,323人	35～39	2,696人	30～34	3,323人	35～39	2,696人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	2,971人	45～49	2,589人	40～44	2,971人	45～49	2,589人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	2,202人	55～59	2,042人	50～54	2,202人	55～59	2,042人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	1,781人	65～69	672人	60～64	1,781人	65～69	672人
70～74	-人			70～74	107人			70～74	107人		

男性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	4,354人	5～9	4,517人	0～4	4,354人	5～9	4,517人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	4,921人	15～19	5,069人	10～14	4,921人	15～19	5,069人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	2,667人	25～29	455人	20～24	2,667人	25～29	455人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	158人	35～39	86人	30～34	158人	35～39	86人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	44人	45～49	27人	40～44	44人	45～49	27人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	22人	55～59	28人	50～54	22人	55～59	28人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	49人	65～69	55人	60～64	49人	65～69	55人
70～74	-人			70～74	79人			70～74	79人		

女性（被扶養者）

平成27年度				平成28年度				平成29年度			
0～4	-人	5～9	-人	0～4	4,090人	5～9	4,344人	0～4	4,090人	5～9	4,344人
10～14	-人	15～19	-人	10～14	4,646人	15～19	4,779人	10～14	4,646人	15～19	4,779人
20～24	-人	25～29	-人	20～24	2,340人	25～29	1,113人	20～24	2,340人	25～29	1,113人
30～34	-人	35～39	-人	30～34	2,262人	35～39	3,664人	30～34	2,262人	35～39	3,664人
40～44	-人	45～49	-人	40～44	5,367人	45～49	4,662人	40～44	5,367人	45～49	4,662人
50～54	-人	55～59	-人	50～54	3,821人	55～59	3,494人	50～54	3,821人	55～59	3,494人
60～64	-人	65～69	-人	60～64	2,952人	65～69	1,436人	60～64	2,952人	65～69	1,436人
70～74	-人			70～74	666人			70～74	666人		

基本情報から見える特徴

1. 大規模な健保組合（被保険者9万2千人、加入者数16万5千人）である。
2. 事業主の拠点が全国にあり、加入者も点在している。
3. 40歳代の加入者が多い

STEP 1 - 2 保健事業の実施状況

保健事業の整理から見える特徴

- ・特定健診の実施率が、被保険者が95%超であるのに対して、被扶養者は15%未満と大きく下回っている。
- ・特定保健指導の実施率が、5%を下回っている。
- ・後発医薬品の差額通知対象が、慢性疾患等の薬を服用している人など一部にとどまっている。

事業の一覧

健保組合の取組

特定健康診査事業	特定健診（被保険者）
特定健康診査事業	特定健診（被扶養者）
特定保健指導事業	特定保健指導
保健指導宣伝	医療費通知
保健指導宣伝	後発医薬品の差額通知
保健指導宣伝	健康保険誌配布
保健指導宣伝	健康応援サイト「KENPOS」
疾病予防	生活習慣病健診（循環器法定外項目）
疾病予防	生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウイルス検査）
疾病予防	けんぽ共同健診
疾病予防	婦人科検診
疾病予防	インフルエンザ補助金
疾病予防	人間ドック

事業主の取組

1	定期健康診断
---	--------

※事業は予算科目順に並び替えて表示されています。

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
健保組合の取組													
特定健康診断事業	1	特定健診(被保険者)	【目的】事業所ごとの定期健康診断の中で実施 【概要】事業主が行う定期健康診断と併せて共同実施	被保険者	全て	男女	40～74	全員	0	平成28年度 受診者数 54,397名 実施率 87.3%	・事業所が行う定期健康診断と健保が行う生活習慣病健診を併せて実施	・人間ドック受診による結果の特定健診データ化が出来ていなかったが、一部データ化を行うことが出来た。今後さらに広めていきたい	4
	1	特定健診(被扶養者)	【目的】35歳以上の被扶養者を主な対象とした「けんぽ共同健診」として実施 【概要】複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診できるけんぽ共同健診(施設型・巡回型)に参画し、健診の受診機会を増やす	被扶養者	全て	男女	40～74	全員	32,914	平成28年度 受診者数 4,696名 実施率 19.1%	・自宅に対象者の宛名で案内冊子を送付 ・健診の共同運営により、受診出来る医療機関の選択肢が拡大 ・特定健診部分を無料化	・健診料金の自己負担が重い ・地方の契約医療機関が少ない	2
特定保健指導事業	3	特定保健指導	【目的】特定保健指導の実施率向上 【概要】特定健診の結果に基づき、積極的支援となった対象者に事業所単位で実施	被保険者	一部の事業所	男女	40～74	基準該当者	6,986	平成28年度 実施者数 258名	・対象者の名簿を事業所に渡して、実施までの運用を事業所が主体で実施 ・事業所へ委託業者と同行し実施の詳細説明	・対象者が現業の場合、実施が難しい ・事業所および対象者が消極的	1
保健指導宣伝	7	医療費通知	【目的】医療費の削減および意識づけ、情報発信 【概要】前年度11月診療分～今年度10月診療分の医療費を世帯ごとにまとめて被保険者の自宅へ送付	被保険者 被扶養者	全て	男女	(上限なし)～(上限なし)	全員	9,844	年1回1月に通知 被保険者の自宅に送付(平成29年1月99,811通) また、内容はホームページ(WEB)からも確認可能	・直接自宅に送付 ・適用拡大で通知数は増加したが昨年同様レセプト件数20件未満については、圧着ハガキで通知を行ったことにより、郵送費用の削減を行うことが出来た ・任意継続被保険者への保険料納入証明書は今年より単独で郵送することとなり、医療費通知を待つことなく確定申告の手続きができるようになった	・一年前からの医療費情報なので、利用者側の記憶が薄れ新鮮性に欠ける情報になる	4
	7	後発医薬品の差額通知	【目的】後発医薬品の利用促進 【概要】年1回慢性疾患等の薬を服用している方を対象に、後発医薬品との差額通知を送付	被保険者 被扶養者	全て	男女	18～70	基準該当者	2,891	年1回通知 (平成28年度 通知者数 5,608名)	・直接対象者の自宅に送付 ・慢性疾患等とアレルギー薬(花粉症)の薬を服用している人を対象に通知した	・慢性疾患とアレルギー用薬のみなので、対象者が限定される	3
	4	健康保険誌配布	【目的】健康保険制度の動向と諸情勢等を認識してもらい、疾病予防および健康づくりの啓発 【概要】健保連が発行している雑誌「健康保険誌」を希望の事業所に配布	被保険者	全て	男女	(上限なし)～(上限なし)	全員	1,453	平成28年度 配布事業所数 144事業所 月1回送付	・行政の保健事業をタイムリーに情報提供することにより、組合が実施する保健事業の周知と理解の促進に寄与	・「健康保険誌」の利用状況を定期的に確認した上で、配布先の見直しを行う必要がある	4

予算科目	注1) 事業分類	事業名	事業の目的および概要	対象者					事業費(千円)	振り返り			注2) 評価
				資格	対象事業所	性別	年齢	対象者		実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
	7	健康応援サイト「KENPOS」	【目的】被保険者の健康に対する意識向上 【概要】被保険者自身が健康応援サイト「KENPOS」に登録し、日々の体重・歩数等を入力、また、健康情報を見ることが出来る	被保険者	全て	男女	(上限なし) ~ (上限なし)	全員	2,055	平成29年3月末現在登録者数750名	・1事業所が歩数入力データを利用し部署対抗歩数ランキングのイベントを実施、そのためのデータ提供を行った	登録者がなかなか増えない	1
疾病予防	1	生活習慣病健診(循環器法定外項目)	【目的】生活習慣病の早期発見 【概要】循環器法定外の部分を事業所が行う定期健康診断と併せて実施	被保険者	全て	男女	30 ~ 74	全員	213,690	平成28年度受診者数 71,230名	事業所が行う定期健康診断と併せて実施	—	4
	1	生活習慣病健診(胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウイルス検査)	【目的】がんの早期発見 【概要】がん検診を事業所が行う定期健康診断と併せて実施	被保険者	全て	男女	35 ~ 74	全員	689,976	平成28年度受診者数 胃部検査 35,116名 便潜血検査 50,624名 腹部超音波検査 56,661名 肝炎ウイルス検査(35歳のみ) 1,762名	・事業所が行う定期健康診断と併せて実施	・胃部検査は任意性のため、受診率が低い	3
	1	けんぽ共同健診	【目的】生活習慣病およびがんの早期発見 【概要】複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診出来るけんぽ共同健診(施設型・巡回型)に参画し、健診の受診機会を増やす	被扶養者	全て	男女	35 ~ 74	全員	25,368	平成28年度受診者数 基本検査 697名 胃部検査 1,933名 腹部超音波検査 2,575名 便潜血検査 161名	・自宅に対象者の宛名で案内冊子を送付 ・健診の共同運営により受診出来る医療機関の選択肢が拡大	・健診料金の自己負担が重い ・地方の契約医療機関が少ない	2
	1	婦人科検診	【目的】婦人科疾患の早期発見 【概要】費用の一部補助	被保険者 被扶養者	全て	女性	35 ~ 74	全員	24,513	平成28年度受診者数 乳がん検査 4,408名 子宮がん検査 5,069名	・被保険者は「生活習慣病健診」と同時に、被扶養者は「けんぽ共同健診」と同時に受診	・自己負担が発生する。また、任意性のため実施率が低い	1
	7	インフルエンザ補助金	【目的】感染症の重篤化予防 【概要】一般被保険者の方を対象に事業所単位で集団実施した場合に補助を支給	被保険者	全て	男女	(上限なし) ~ (上限なし)	全員	77,115	平成28年度実施者数 38,602名	・事業所との連携 ・一律補助金額支給制度により接種医療機関の選択肢が拡大 ・補助金増額(1000円→2000円)	・平成27年度からワクチン価格が値上がりしたこと	3
	1	人間ドック	【目的】任意型の健診として受診機会を設ける 【概要】生活習慣病健診を受診しなかった被保険者およびけんぽ共同健診を受診しなかった被扶養者に費用の一部補助	被保険者 被扶養者	全て	男女	40 ~ 74	基準該当者	14,683	平成28年度受診者数 1,038名	・一律の金額の補助金制度にすることにより、どこの医療機関でも受診が可能となり受診機会が増えた	・紙ベースの結果表では処理が煩雑であるため、特定健診結果の電子データ化を促進する	2

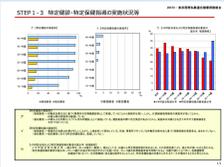
注1) 1. 健康診査 2. 健康診査後の通知 3. 保健指導 4. 健康教育 5. 健康相談 6. 訪問指導 7. その他

注2) 1. 39%以下 2. 40%以上 3. 60%以上 4. 80%以上 5. 100%

事業名	事業の目的および概要	対象者			振り返り			共同実施
		資格	性別	年齢	実施状況・時期	成功・推進要因	課題及び阻害要因	
事業主の取組								
定期健康診断	労働安全衛生法に基づく健康診断	被保険者	男女	(上限なし) ～(上限なし)	実施率 96%	<ul style="list-style-type: none"> ・職場単位の集団健診として実施 ・勤務時間中の受診可 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の決めた実施期間内に行かない人がいる 	有

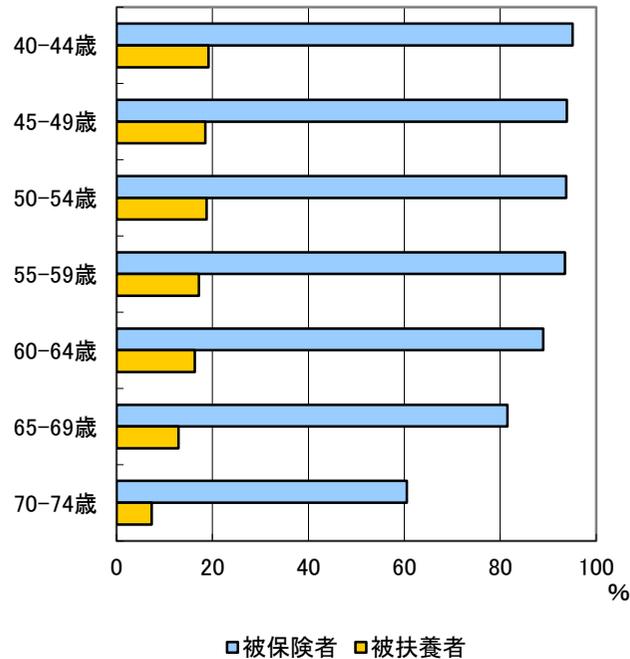
STEP1-3 基本分析

登録済みファイル一覧

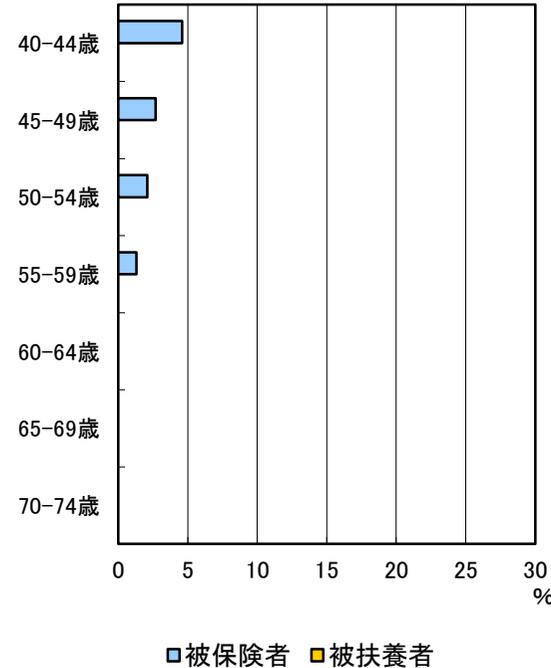
記号	ファイル画像	タイトル	カテゴリ	コメント
ア		STEP1-3 特定健診・特定保健指導の実施状況等	特定健診分析	-
イ		STEP1-4 一人当たりの医療費	医療費・患者数分析	-
ウ		STEP1-5 健康分布図等	健康リスク分析	-
エ		STEP1-6 生活習慣病リスクと医療機関受診状況等	健康リスク分析	-
オ		STEP1-7 後発医薬品の使用状況等	後発医薬品分析	-

STEP 1 - 3 特定健診・特定保健指導の実施状況等

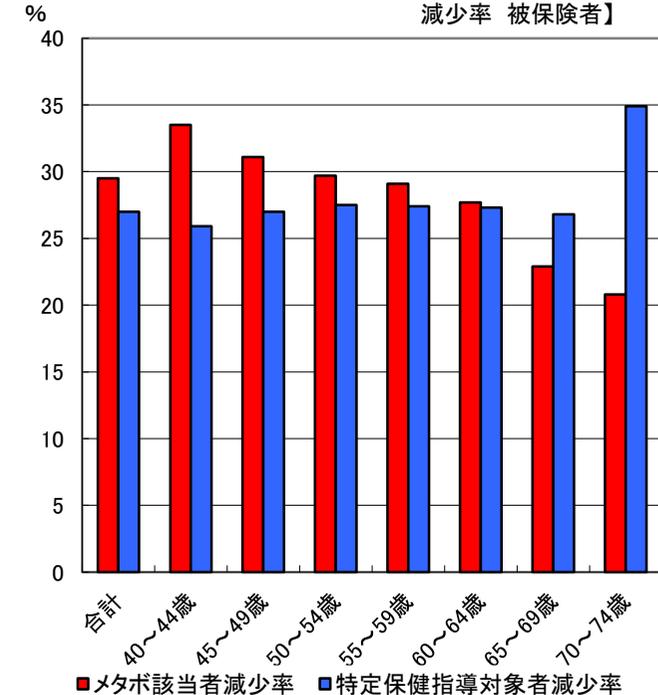
ア.【特定健診の実施率】



イ.【特定保健指導の実施率】



ウ.【メタボ該当者および特定保健指導対象者の減少率 被保険者】



【特定健診の実施率】

ア

(被保険者)→労働安全衛生法に基づく事業所の定期健康診断として実施していることから実施率は高い。しかし、任意継続被保険者の実施率が低いことから、60歳以降の実施率は漸減している。
 (被扶養者)→35歳以上を対象とした「けんぽ共同健診」として実施している。健診実施の際に自己負担があることから、実施率は対象となる全ての年代で被保険者を大きく下回っている。

【特定保健指導の実施率】

イ

(被保険者)→事業所の社員は仕事が忙しいことから、人数を絞って実地している。別途、事業所で行っている労働安全衛生法に基づく保健指導の実施者は、含まれていない。
 (被扶養者)→被扶養者に対する特定保健指導は、実施していない。

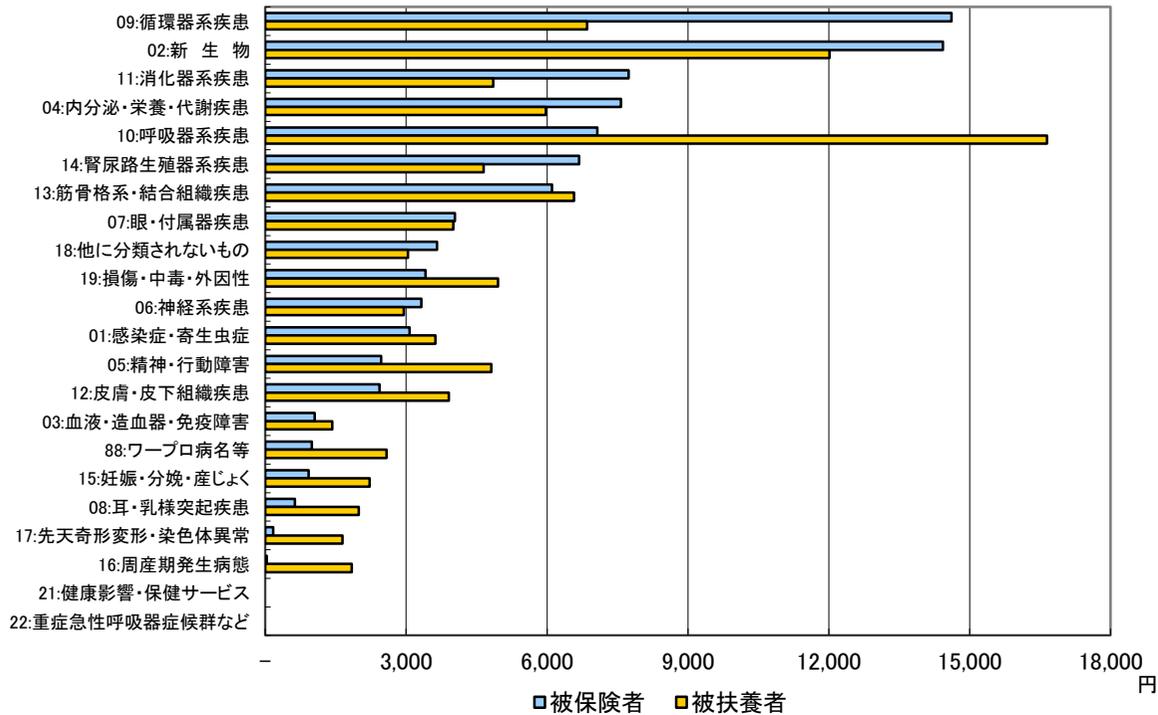
【メタボ該当者および特定保健指導対象者の減少率 被保険者】

ウ

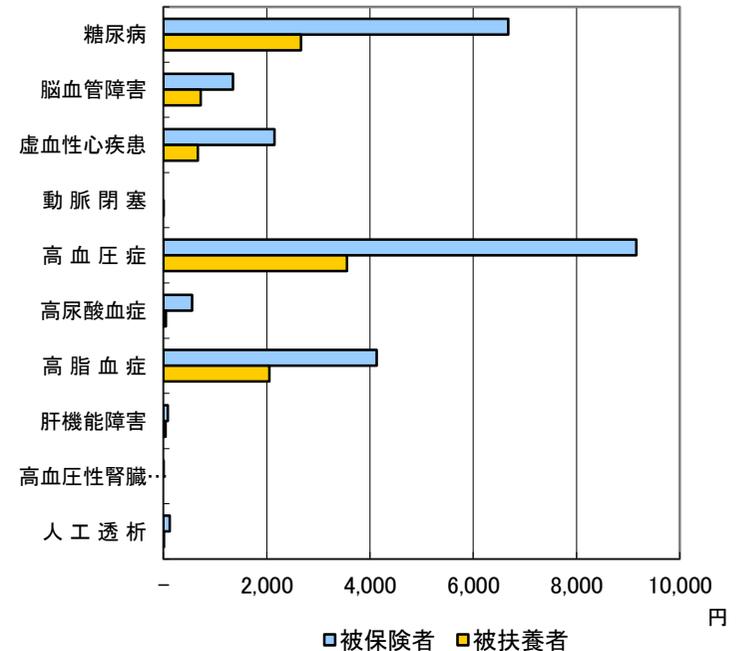
・メタボ該当者の減少率→減少率は、40～44歳が一番高い。理由としては、40歳から特定保健指導が始まるため、その初期効果により、減少率が高いものと思われる。
 ・特定保健指導対象者の減少率→70～74歳代の減少率が他の年代よりも高いのは、70～74歳の前期高齢者後半時期になると、加齢が進むことに伴い、医療機関受診機会が多くなって、生活習慣病に係る薬を服用することにより、特定保健指導の対象から外れるケースが増加するためと考えられる。

STEP 1 - 4 一人当たりの医療費

エ.【疾病大分類別一人当たり医療費】



オ.【生活習慣病に関わる疾病の一人当たりの医療費】



エ

【疾病大分類別一人当たり医療費】

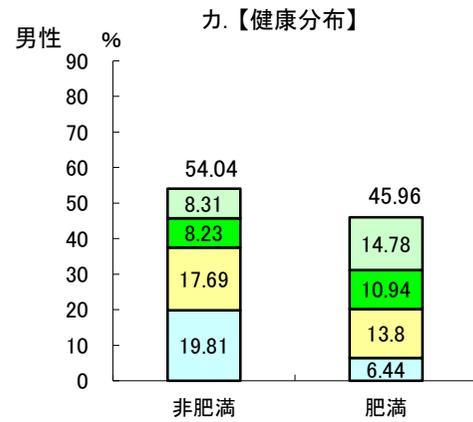
・成人病の三大疾患である「がん」「脳血管疾患」「心臓疾患」が含まれる「09:循環器系疾患」と「02:新生物」に関して、被保険者・被扶養者とも、他の疾病分類と比較して、かかる医療費が多い。「10:呼吸器系疾患」に関しては、被扶養者にかかる医療費が非常に多くなっているが、これは、小児アレルギー、花粉症、喘息疾患等が含まれているためと思われる。

オ

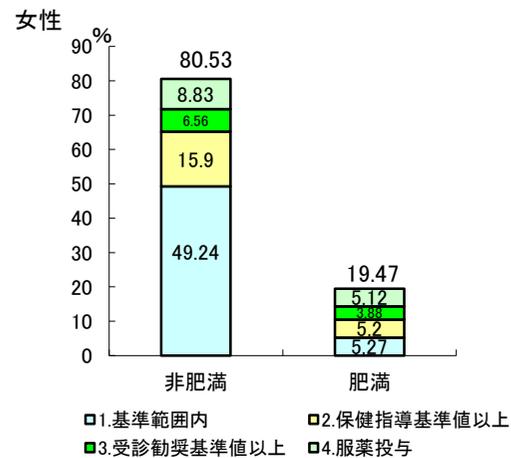
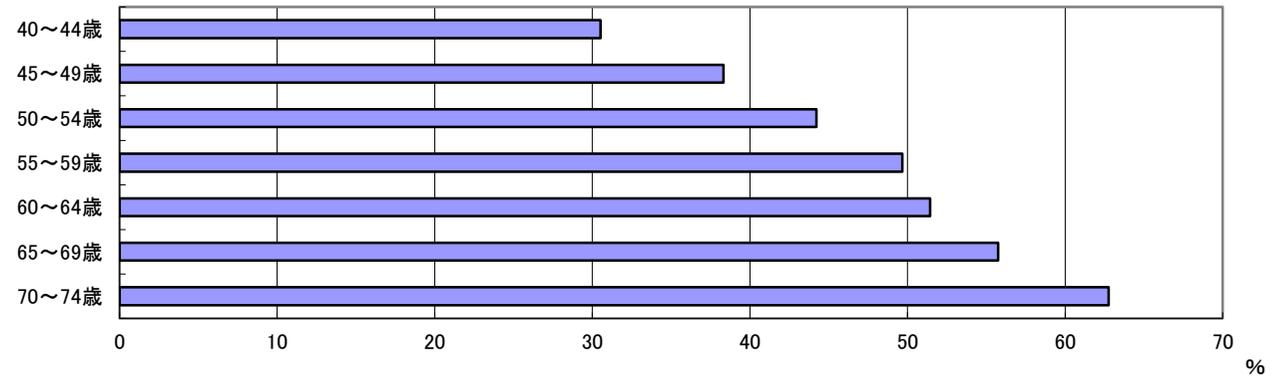
【生活習慣病に関わる疾病の一人当たり医療費】

・一人当たりの医療費が1番高額なのは、被保険者・被扶養者とも高血圧症にかかるものである。次いで、糖尿病、高脂血症の順に高額な医療費がかかっている。

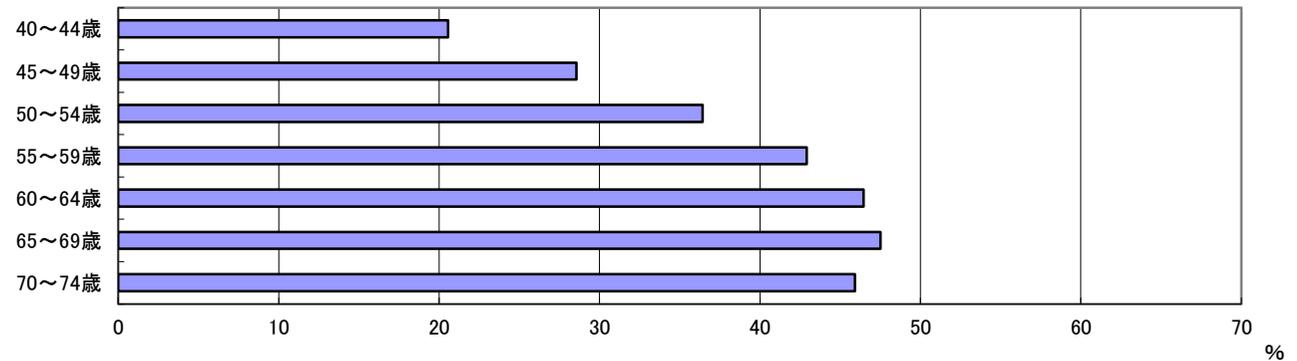
STEP 1 - 5 健康分布図等



キ.【血圧値が保健指導基準値以上の者の割合 被保険者】



ク.【血糖値が保健指導基準値以上の者の割合 被保険者】



力

【健康分布】

(男性)→半数近くが肥満の状態にある。7割以上の者が保健指導基準値以上の状態にある。
 (女性)→肥満の割合は20%を下回り、男性よりも肥満割合は低い。男性とは異なり、非肥満の半数近くが基準範囲内にある。

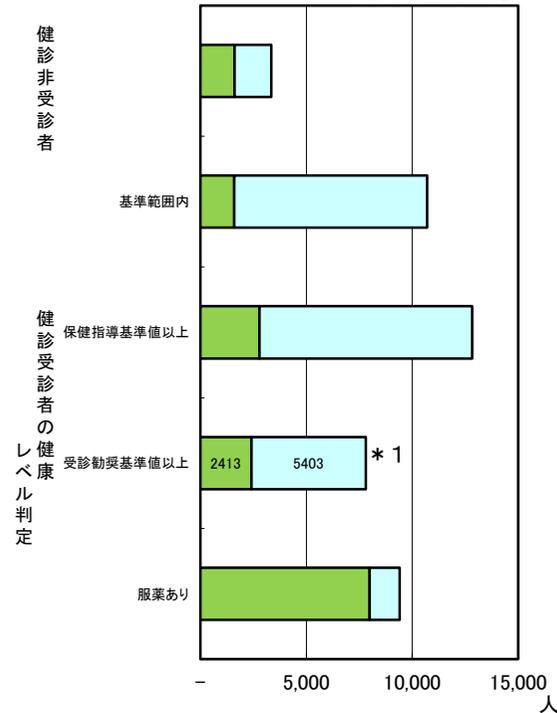
キ、ク

【血圧値または血糖値が保健指導基準値以上の者の割合 被保険者】

・血圧値、血糖値とも加齢するに従って、一部を除き、保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。
 ・40歳以上の全ての年齢で、血圧値が保健指導基準値以上の者の割合が、血糖値のそれを上回っている。(血圧値に何らかの問題を抱える者の比率が高い。)

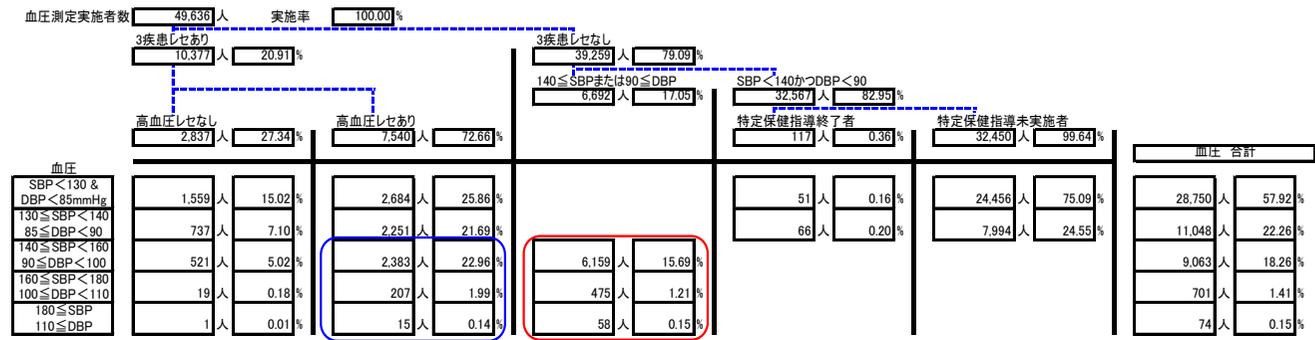
STEP 1 - 6 生活習慣病リスクと医療機関受診状況等

ケ.【生活習慣病・健診レベル判定と医療受診状況】

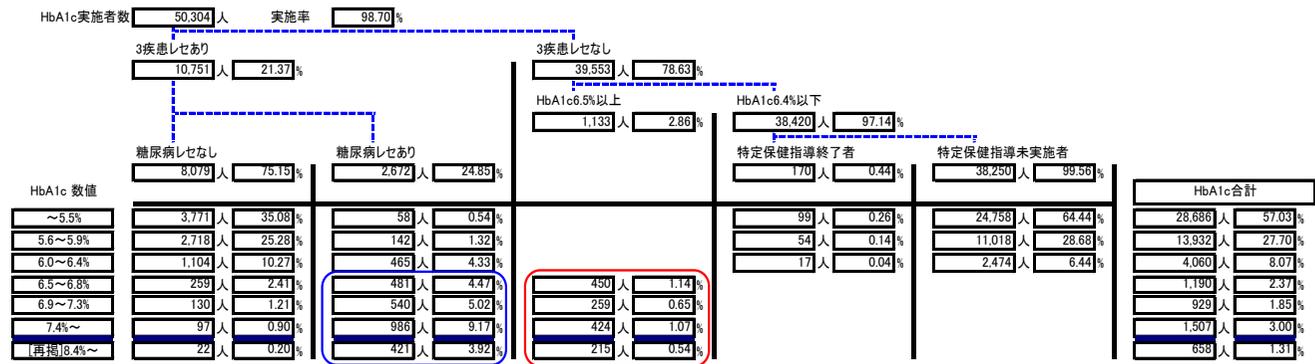


■生活習慣病レセあり □生活習慣病レセなし

【リスクフローチャート】
コ. (脳卒中・心筋梗塞)



サ. (糖尿病)

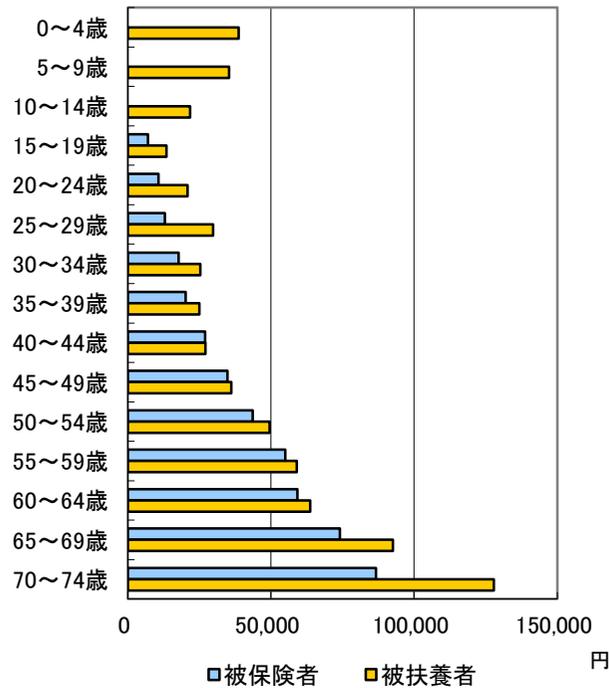


ケ・コ・サ 【重症化予防に向けた対象者数の把握】
 ・受診勧奨基準値(医療機関で診療を受ける必要)以上の者であっても生活習慣病のレセプト(診療・調剤報酬明細書)がある者は、半数以下であることを確認した。(* 1) (半数以上が医療機関で受診することなく放置している。)
 また、高血圧症で服薬投与中であつた血圧値が受診勧奨基準以上の者(* 2)および糖尿病で服薬投与中であつた血糖値が受診勧奨基準以上の者(* 3)が、各々2割以上存在している。

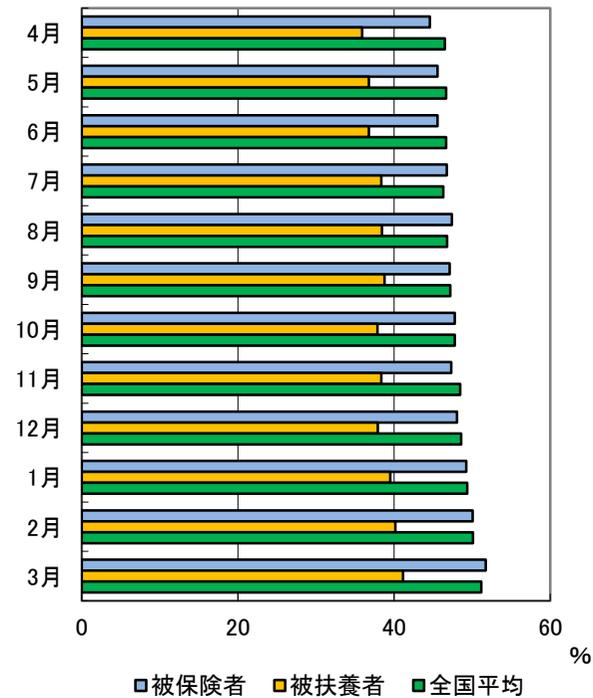
ケ・コ・サ 【早期治療のための受診勧奨】
 ・生活習慣病の健診レベル判定が受診勧奨基準値以上であるにもかかわらず、レセプトのない者(医療機関未受診者)がレセプトのある者(医療機関受診者)の2倍以上存在している。(* 1)
 ・血圧値が受診勧奨基準値以上で、脳卒中、心筋梗塞のリスクがあるにもかかわらず、医療機関未受診の者が、6千人以上存在している。(* 4)
 ・血糖値が受診勧奨基準値以上で、糖尿病のリスクがあるにもかかわらず、医療機関未受診の者が、1千人以上存在している。(* 5)

STEP 1 - 7 後発医薬品の使用状況等

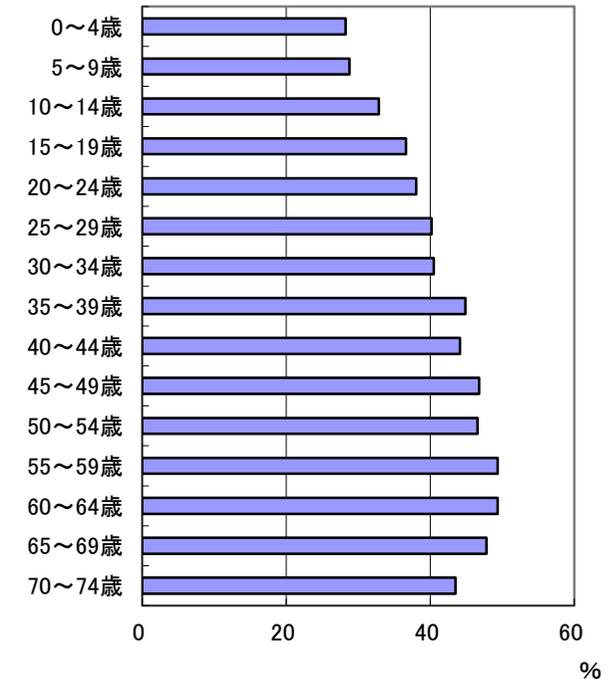
シ.【一人当たり調剤費】



ス.【後発医薬品の使用状況】



セ.【年代別の後発医薬品使用割合】



シ

【一人当たり調剤費】

- ・加齢とともに被保険者、被扶養者とも一人当たり調剤費が増加する。増加割合は、50歳を超えると大きくなり、特に65歳以上の被扶養者の伸びが顕著である。

ス

【後発医薬品の使用状況】

- ・全シーズンを通して被保険者は全国平均値とほぼ同等である。一方、被扶養者の使用状況は、被保険者と全国平均を下回っている。理由としては、若年者の使用割合が他年代と比べて低いためと思われる。(セ.年代別の後発医薬品使用割合参照)

セ

【年代別の後発医薬品使用割合】

- ・若年者の使用割合が低く、25歳未満の使用割合は、40%を下回っている。25歳以上の使用割合は、55~64歳をピークに65歳以降は減少している。

STEP 2 健康課題の抽出

No.	STEP1 対応項目	基本分析による現状把握から見える主な健康課題		対策の方向性	優先すべき課題
1	ア	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、逡減する傾向にある。	➔	<ul style="list-style-type: none"> 被扶養者を対象とする「けんぼ共同健診」について、事業主や被扶養者個人への利用案内書および健保のホームページを活用して、特定健診受診の有用性を啓発する。⇒意識づけ 事業主と協同して、特定保健指導を受け易い職場環境を整えとともに、被保険者の健康保持意識を醸成する。⇒コラボヘルス、環境整備 	
2	イ	エ. 疾病分類別一人当たり医療費は「循環器系疾患」、「新生物」、「呼吸器系疾患」などで高い。特に、花粉症が含まれる「呼吸器系疾患」について、被扶養者の一人当たり医療費が15,000円を超えており、最も高い。	➔	<ul style="list-style-type: none"> 新たにアレルギー用薬（花粉症）を「後発医薬品の差額通知」の対象に加えて、先発医薬品から後発医薬品への転換を促すことにより、「呼吸器系疾患」にかかる医療費削減を図る。⇒意識づけ 	
3	ウ	オ. 生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク. 男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ. 受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。	➔	<ul style="list-style-type: none"> 被保険者の「循環器系疾患」や「内分泌・栄養・代謝系疾患」は予防対策が可能であり、特定健診データからリスク者を特定することが可能であるため、最も介入効果が期待される疾病として位置づけ、対策を講じていく。⇒意識づけ、特定保健指導等 事業所や健保のホームページ、医療費通知などを通じて、配偶者も含めた健康保持を啓発して、健康の増進意識を醸成する⇒意識づけ、環境整備 	✓
4	オ	シ・ス・セ. 後発医薬品に関して、被扶養者、特に若年者の使用割合は、被保険者や全国平均よりも低く、40%を下回っている。	➔	<ul style="list-style-type: none"> すでに実施している「後発医薬品の差額通知」の対象を拡大して、特に被扶養者の若年者層を中心に先発医薬品からの転換を促すことにより、後発医薬品の使用割合を高める。⇒意識づけ 	

基本情報

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> 事業所が全国にあり、加入者数も多く、16万人を超えている。事業所は、鉄道、バスなどの運輸業をはじめ、映画、ホテルなどサービス業に従事する者が多い。被保険者年齢の中心値は、40～44歳である。健康保険組合のスタッフには、医師または保健師等の専門家がいない。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> 全国的に事業所があり、かつ加入者数を多いため、健康保険組合が直接的に加入者に働きかけることは、組合の担当者数と時間的に限界があるため、事業主との協働（コラボヘルス）が重要である。 40歳代を中心とした取り組みを強化する。 各事業所の産業医、保健師等との連携が必要である。

保健事業の実施状況

No.	特徴		対策検討時に留意すべき点
1	<ul style="list-style-type: none"> ①業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ②被扶養者の特定健康診査受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 	➔	<ul style="list-style-type: none"> ①特定保健指導について、事業主の理解を深めて、実施率を高められるよう、職場環境や被保険者に対する健康保持の意識向上に向けた啓発活動を検討して実施する。 ②けんぼ共同健診の利用案内書やホームページなどの媒体内容を工夫して、受診者増に結び付ける。

STEP 3 保健事業の実施計画

事業全体の目的

特定保健指導の拡大

事業全体の目標

対象者を拡大し、実施率10%以上を目指し、生活習慣病を未然に防止する。

事業の一覧

職場環境の整備

- 1 特定保健指導

加入者への意識づけ

- 1 被保険者および被扶養者への情報提供体制

個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 特定保健指導
- 4 医療費通知
- 5 後発医薬品の差額通知
- 6 健康応援サイト「KENPOS」
- 7 生活習慣病健診（循環器法定外項目）
- 8 生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウイルス検査）
- 9 けんぽ共同健診
- 10 婦人科検診
- 11 インフルエンザ補助金
- 12 人間ドック

【保健事業の基盤】職場環境の整備

1 事業名	特定保健指導		
健康課題との関連	<p>ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。</p> <p>イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。</p> <p>ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	<p>【目的】メタボリックシンドロームの減少を目的とした保健指導</p> <p>【概要】平成26年度実施率見込みは、2.5%</p>
事業分類	4-ア		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	<p>資格 - 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】平成29年度:-) ・特定保健指導の実施について、事業所側の理解を深めながら、実施率を5%以上に高める		
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】平成29年度:-) ・特定保健指導を受け易い職場環境の整備		

【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1 事業名	被保険者および被扶養者への情報提供体制		
健康課題との関連	<p>ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。</p> <p>イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。</p> <p>ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、逡減する傾向にある。</p>		
予算科目	その他	事業の目的 および概要	<p>【目的】被保険者、被扶養者への情報提供を充実して意識づけを図る</p> <p>【概要】ホームページを通じて医療費の現状、保健事業の取り組み等について周知を図る</p>
事業分類	2-ア		
新規・既存区分	既存	対象者	<p>資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 -～（上限なし） 対象者分類 全員</p>
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・ホームページへのアクセス数を10%アップする（現在月平均4725アクセス数）		
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・医療費削減や特定健診受診者増などに向けて、加入者への意識づけが出来る		

【個別の事業】

1 事業名		特定健診（被保険者）	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 事業所ごとの定期健康診断の中で実施 【概要】 事業主が行う定期健康診断と併せて共同実施
事業分類	-		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診率95%以上を維持する			
アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診者の健康保持			

2 事業名		特定健診（被扶養者）	
健康課題との関連	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 35歳以上の被扶養者を主な対象とした「けんぽ共同健診」として実施 【概要】 複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診できるけんぽ共同健診（施設型・巡回型）に参画し、健診の受診機会を増やす
事業分類	-		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・自己負担額減額を検討		
事業目標			
アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・けんぽ共同健診の受診率を向上する（受診率20%以上）			
アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診者の健康保持			

3 事業名		特定保健指導	
-------	--	--------	--

健康課題との関連	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、逡減する傾向にある。		
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的 および概要	【目的】 特定保健指導の実施率向上 【概要】 特定健診の結果に基づき、積極的支援となった対象者に事業所単位で実施
事業分類	-		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		

事業目標			
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・実施事業所を多くし、実施率を高める (実施率5%以上) ・保健指導レベルの改善 ・途中脱落者をゼロにする		
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・実施者の健康改善 (保健指導レベルの改善。積極的支援レベルから動機づけまたは情報提供のレベルまで改善する)		

4事業名	医療費通知		
健康課題との関連	オ. 生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク. 男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ. 受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 医療費の削減および意識づけ、情報発信 【概要】 前年度11月診療分～今年度10月診療分の医療費を世帯ごとにまとめて被保険者の自宅へ送付
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 (上限なし)～(上限なし) 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		

事業目標			
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・掲載記事等にイラストを入れたり、興味もてる内容にするなど読ませる工夫をする		
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・医療費や健康保持に対する意識づけ		

5事業名	後発医薬品の差額通知		
健康課題との関連	エ. 疾病分類別一人当たり医療費は「循環器系疾患」、「新生物」、「呼吸器系疾患」などで高い。特に、花粉症が含まれる「呼吸器系疾患」について、被扶養者の一人当たり医療費が15,000円を超えており、最も高い。		

予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】後発医薬品の利用促進 【概要】年1回慢性疾患等の薬を服用している方を対象に、後発医薬品との差額通知を送付
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～70 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】平成29年度:-) ・対象者を拡大し、後発医薬品への切り替え促進 (切替率60%)			
アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】平成29年度:-) ・全体の医療費の抑制			

6事業名	健康応援サイト「KENPOS」		
健康課題との関連	オ.生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク.男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ.受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。		
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】被保険者の健康に対する意識向上 【概要】被保険者自身が健康応援サイト「KENPOS」に登録し、日々の体重・歩数等を入力、また、健康情報を見ることが出来る
事業分類	-		
新規・既存区分	-	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 (上限なし)～(上限なし) 対象者分類 全員
実施主体	-		
実施計画 (平成29年度)	-		
事業目標			
アウトプット指標 -			
アウトカム指標 -			

7事業名	生活習慣病健診（循環器法定外項目）		
健康課題との関連	オ.生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク.男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ.受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の早期発見 【概要】循環器法定外の部分を事業所が行う定期健康診断と併せて実施
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 30～74 対象者分類 全員

実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業
実施計画 (平成29年度)	・継続
事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・定期健康診断として継続実施する (受診率95%以上を維持)
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・受診者の健康保持

8	事業名	生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウィルス検査）	
健康課題との関連	オ. 生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク. 男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ. 受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】がんの早期発見 【概要】がん検診を事業所が行う定期健康診断と併せて実施
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) 受診を促進 (胃部検査 受診率60%、便潜血検査 受診率60%)		
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度:-) ・受診者の健康保持		

9	事業名	けんぽ共同健診	
健康課題との関連	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。		
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病およびがんの早期発見 【概要】複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診出来るけんぽ共同健診（施設型・巡回型）に参画し、健診の受診機会を増やす
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		

事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診を促進 (受診率20%)
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診者の健康保持

10	事業名	婦人科検診	
健康課題との関連		該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)	
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 婦人科疾患の早期発見 【概要】 費用の一部補助
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 女性 年齢 35～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		

事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診を促進 (乳がん検査 受診率15%、子宮がん検査 受診率15%)
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・受診者の健康保持

11	事業名	インフルエンザ補助金	
健康課題との関連		該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)	
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 感染症の重篤化予防 【概要】 一般被保険者の方を対象に事業所単位で集団実施した場合に補助を支給
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 (上限なし) ～ (上限なし) 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		

事業目標	
アウトプット指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・接種率向上による感染時重篤化の予防
アウトカム指標	- (【実績値】 - 【目標値】 平成29年度：-) ・医療費の抑制

12	事業名	人間ドック	
健康課題との関連		該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)	

予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】任意型の健診として受診機会を設ける 【概要】生活習慣病健診を受診しなかった被保険者およびけんぽ共同健診を受診しなかった被扶養者に費用の一部補助
事業分類	-		
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
事業目標			
アウトプット指標 - (【実績値】 - 【目標値】平成29年度：-) ・生活習慣病健診およびけんぽ共同健診を補完するものとして実施			
アウトカム指標 - (【実績値】 - 【目標値】平成29年度：-) ・受診者の健康保持			

STEP 4-1 事業報告

事業の一覧

職場環境の整備

- 1 特定保健指導

加入者への意識づけ

- 1 被保険者および被扶養者への情報提供体制

個別の事業

- 1 特定健診（被保険者）
- 2 特定健診（被扶養者）
- 3 特定保健指導
- 4 医療費通知
- 5 後発医薬品の差額通知
- 6 健康応援サイト「KENPOS」
- 7 生活習慣病健診（循環器法定外項目）
- 8 生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウイルス検査）
- 9 けんぽ共同健診
- 10 婦人科検診
- 11 インフルエンザ補助金
- 12 人間ドック

【保健事業の基盤】職場環境の整備

1 事業名	特定保健指導		
健康課題との関連	<p>ア．被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。</p> <p>イ．業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。</p> <p>ウ．初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。</p>		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】メタボリックシンドロームの減少を目的とした保健指導 【概要】平成26年度実施率見込みは、2.5%
事業分類	4-ア		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 - 対象事業所 一部の事業所 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
振り返り	<p>実施状況・時期 平成29年度 実施者数 570名</p> <p>成功・推進要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者の名簿を事業所に渡して、実施までの運用を事業所・健保・委託業者が共同で実施することにより、役割分担が明確になった。 ・事業所へ委託業者と同行し実施の詳細説明をし、事業所の理解を深めた。 <p>課題及び阻害要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・対象者が現業の場合、実施が難しい ・事業所および対象者が消極的 		
予算額	-千円	決算額	-千円 評価 -
事業目標	<p>アウトプット指標 - (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・特定保健指導の実施について、事業所側の理解を深めながら、実施率を5%以上に高める[-]</p> <p>アウトカム指標 - (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・特定保健指導を受け易い職場環境の整備[-]</p>		

【保健事業の基盤】加入者への意識づけ

1 事業名	被保険者および被扶養者への情報提供体制		
健康課題との関連	<p>ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。</p> <p>イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。</p> <p>ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。</p>		
予算科目	その他	事業の目的 および概要	<p>【目的】被保険者、被扶養者への情報提供を充実して意識づけを図る</p> <p>【概要】ホームページを通じて医療費の現状、保健事業の取り組み等について周知を図る</p>
事業分類	2-ア	対象者	<p>資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 -～（上限なし）</p> <p>対象者分類 全員</p>
新規・既存区分	既存		
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
振り返り	<p>実施状況・時期 平成29年8月にホームページにて特定保健指導について、受診勧奨の周知を図った。</p> <p>成功・推進要因 -</p> <p>課題及び阻害要因 -</p>		
予算額	-千円	決算額	-千円 評価 -
事業目標			
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・ホームページへのアクセス数を10%アップする（現在月平均4725アクセス数）[-]		
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・医療費削減や特定健診受診者増などに向けて、加入者への意識づけが出来る[-]		

【個別の事業】

1 事業名		特定健診（被保険者）	
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 事業所ごとの定期健康診断の中で実施 【概要】 事業主が行う定期健康診断と併せて共同実施
事業分類	-		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員
実施主体	3. 健保組合と事業主との共同事業		
実施計画 (平成29年度)	・継続		
振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 60,333名 実施率 94.3%	
	成功・推進要因	・事業所が行う定期健康診断と健保が行う生活習慣病健診を併せて実施することによって、受診率が高められた。	
	課題及び阻害要因	・人間ドック受診による結果の特定健診データ化が出来ていなかったが、一部データ化を行うことが出来た。今後全てデータ化をしたい。	
予算額	-千円	決算額	0千円 評価 4. 80%以上
事業目標			
アウトプット指標	-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%）・受診率95%以上を維持する[-]		
アウトカム指標	-（【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%）・受診者の健康保持[-]		

2 事業名		特定健診（被扶養者）	
健康課題との関連	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、逡減する傾向にある。		
予算科目	特定健康診査事業	事業の目的 および概要	【目的】 35歳以上の被扶養者を主な対象とした「けんぽ共同健診」として実施 【概要】 複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診できるけんぽ共同健診（施設型・巡回型）に参画し、健診の受診機会を増やす
事業分類	-		
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合		
実施計画 (平成29年度)	・自己負担額減額を検討		

振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 5,164名 実施率 21.3%			
	成功・推進要因	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅に対象者の宛名で案内冊子を送付することにより、確実に対象者宛に届くようにした。 ・健診の共同運営により、受診出来る医療機関の選択肢を拡大し、受診機会を増やした。 ・特定健診部分を無料化 			
	課題及び阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診部分以外の健診料金が発生する。 ・地方の契約医療機関が少ない 			
予算額	-千円	決算額	38,605千円	評価	1.39%以下
事業目標					
アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・けんぽ共同健診の受診率を向上する (受診率20%以上) [-]				
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・受診者の健康保持[-]				

3	事業名	特定保健指導										
健康課題との関連	<p>ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。</p> <p>イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。</p> <p>ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。</p>											
予算科目	特定保健指導事業	事業の目的	【目的】 特定保健指導の実施率向上									
事業分類	-	および概要	【概要】 特定健診の結果に基づき、積極的支援となった対象者に事業所単位で実施									
新規・既存区分	既存(法定)	対象者	資格	被保険者	対象事業所	一部の事業所	性別	男女	年齢	40～74	対象者分類	基準該当者
実施主体	1. 健保組合											
実施計画 (平成29年度)	・継続											
振り返り	実施状況・時期	平成29年度 実施者数 570名										
	成功・推進要因	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者の名簿を事業所に渡して、実施までの運用を事業所・健保・委託業者が共同で実施することにより、役割分担が明確になった。 ・事業所へ委託業者と同行し実施の詳細説明をし、事業所の理解を深めた。 										
	課題及び阻害要因	<ul style="list-style-type: none"> ・対象者が現業の場合、実施が難しい ・事業所および対象者が消極的 										
予算額	0千円	決算額	12,163千円			評価	1.39%以下					
事業目標												

アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・実施事業所を多くし、実施率を高める（実施率5%以上） ・保健指導レベルの改善 ・途中脱落者をゼロにする[-]
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・実施者の健康改善（保健指導レベルの改善。積極的支援レベルから動機づけまたは情報提供のレベルまで改善する）[-]

4 事業名	医療費通知				
健康課題との関連	オ. 生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク. 男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ. 受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 医療費の削減および意識づけ、情報発信 【概要】 前年度11月診療分～今年度10月診療分の医療費を世帯ごとにまとめて被保険者の自宅へ送付		
事業分類	-	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 (上限なし)～(上限なし) 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・継続				
振り返り	実施状況・時期 年1回1月に通知 被保険者の自宅に送付（平成30年1月 102,558通） また、内容はホームページ（WEB）からも確認可能 成功・推進要因 ・直接自宅に送付 ・適用拡大で通知数は増加したが昨年同様レセプト件数20件未満については、圧着がキで通知を行ったことにより、郵送費用の削減を行うことが出来た ・確定申告の医療費控除の証明として使用できるよう様式変更を行った。 課題及び阻害要因 ・一年前からの医療費情報なので、利用者側の記憶が薄れ新鮮味に欠ける情報になる				
予算額	- 千円	決算額	10,581 千円	評価	4. 80%以上
事業目標					
アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・掲載記事等にイラストを入れたり、興味もてる内容にするなど読ませる工夫をする[-]				
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・医療費や健康保持に対する意識づけ[-]				

5 事業名	後発医薬品の差額通知			
健康課題との関連	エ. 疾病分類別一人当たり医療費は「循環器系疾患」、「新生物」、「呼吸器系疾患」などで高い。特に、花粉症が含まれる「呼吸器系疾患」について、被扶養者の一人当たり医療費が15,000円を超えており、最も高い。			
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】 後発医薬品の利用促進 【概要】 年1回慢性疾患等の薬を服用している方を対象に、後発医薬品との差額通知を送付	
事業分類	-	対象者	資格 被保険者・被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 40～70 対象者分類 基準該当者	
新規・既存区分	既存			

実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・継続				
振り返り	実施状況・時期	年1回通知 (平成29年度 通知者数 8,570名)			
	成功・推進要因	・直接対象者の自宅に送付することにより、確実に対象者宛に届く様にした。 ・差額が多い慢性疾患等と対象者の多いアレルギー薬（花粉症）の薬を服用している人を対象に通知した			
	課題及び阻害要因	・慢性疾患とアレルギー用薬のみなので、対象者が限定される			
予算額	-千円	決算額	3,737千円	評価	4. 80%以上

事業目標					
アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・対象者を拡大し、後発医薬品への切り替え促進（切替率60%） [-]				
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・全体の医療費の抑制[-]				

6事業名	健康応援サイト「KENPOS」				
健康課題との関連	オ.生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額の医療費がかかっている。 カ・キ・ク.男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ.受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。				
予算科目	保健指導宣伝	事業の目的 および概要	【目的】被保険者の健康に対する意識向上 【概要】被保険者自身が健康応援サイト「KENPOS」に登録し、日々の体重・歩数等を入力、また、健康情報を見ることが出来る		
事業分類	-				
新規・既存区分	-	対象者	資格 被保険者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 (上限なし) ~ (上限なし) 対象者分類 全員		
実施主体	-				
実施計画 (平成29年度)	-				
振り返り	実施状況・時期	平成30年3月末現在 登録者数1,344名			
	成功・推進要因	・1事業所が歩数入力データを利用し部署対抗歩数ランキングのイベントを実施、そのためのデータ提供を行った			
	課題及び阻害要因	登録者がほとんど増えない			
予算額	-千円	決算額	2,340千円	評価	1. 39%以下
事業目標					
アウトプット指標	-				
アウトカム指標	-				

7	事業名	生活習慣病健診（循環器法定外項目）										
健康課題との関連	オ．生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク．男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ．受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。											
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病の早期発見 【概要】循環器法定外の部分を事業所が行う定期健康診断と併せて実施									
事業分類	-	対象者	資格	被保険者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	30～74	対象者分類	全員
新規・既存区分	既存											
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	・継続											
振り返り	実施状況・時期 平成29年度 受診者数 77,345名 成功・推進要因 事業所が行う定期健康診断と併せて実施 課題及び阻害要因 -											
予算額	-千円	決算額	232,035千円				評価	4．80%以上				
事業目標												
アウトプット指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・定期健康診断として継続実施する（受診率95%以上を維持）[-]												
アウトカム指標 -（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・受診者の健康保持[-]												

8	事業名	生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウィルス検査）										
健康課題との関連	オ．生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク．男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ．受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。											
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】がんの早期発見 【概要】がん検診を事業所が行う定期健康診断と併せて実施									
事業分類	-	対象者	資格	被保険者	対象事業所	全て	性別	男女	年齢	35～74	対象者分類	全員
新規・既存区分	既存											
実施主体	3．健保組合と事業主との共同事業											
実施計画 (平成29年度)	・継続											

振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 胃部検査 36,299名 便潜血検査 58,527名 腹部超音波検査 61,269名 肝炎ウィルス検査 (35歳のみ) 1,830名			
	成功・推進要因	・ 事業所が行う定期健康診断と併せて実施			
	課題及び阻害要因	・ 胃部検査は特に受診率が低い			
予算額	- 千円	決算額	750,152 千円	評価	3 . 60%以上
事業目標					
アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) 受診を促進 (胃部検査 受診率60%、便潜血検査 受診率60%) [-]				
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・ 受診者の健康保持[-]				

9	事業名	けんぽ共同健診			
健康課題との関連	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、逡減する傾向にある。				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】生活習慣病およびがんの早期発見 【概要】複数の健保組合が共同で運営し、全国の契約健診機関で受診出来るけんぽ共同健診 (施設型・巡回型) に参画し、健診の受診機会を増やす		
事業分類	-	対象者	資格 被扶養者 対象事業所 全て 性別 男女 年齢 35～74 対象者分類 全員		
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・ 継続				
振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 基本検査 708名 胃部検査 1,917名 腹部超音波検査 2,769名 便潜血検査 171名			
	成功・推進要因	・ 自宅に対象者の宛名で案内冊子を送付することにより、確実に対象者宛に届く様にした。 ・ 健診の共同運営により受診出来る医療機関の選択肢を拡大し、受診機会を増やした。			
	課題及び阻害要因	・ 特定健診部分以外の健診料金が発生する。 ・ 地方の契約医療機関が少ない			
予算額	- 千円	決算額	26,391 千円	評価	1 . 39%以下
事業目標					

アウトプット指標 - (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・受診を促進 (受診率20%) [-]

アウトカム指標 - (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・受診者の健康保持[-]

10	事業名	婦人科検診			
健康課題との関連	該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 婦人科疾患の早期発見 【概要】 費用の一部補助		
事業分類	-				
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者・被扶養者	対象事業所 全て	性別 女性 年齢 35～74 対象者分類 全員
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・継続				
振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 乳がん検査 4,892名 子宮がん検査 5,487名			
	成功・推進要因	・被保険者は「生活習慣病健診」と同時に、被扶養者は「けんぽ共同健診」と同時に受診			
	課題及び阻害要因	・自己負担が発生する。また、任意性のため実施率が低い			
予算額	-千円	決算額	26,982千円	評価	1. 39%以下
事業目標					
アウトプット指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・受診を促進 (乳がん検査 受診率15%、子宮がん検査 受診率15%) [-]				
アウトカム指標	- (【現行値】 - 【計画値/実績値】 平成29年度：-/- 【達成度】 -%) ・受診者の健康保持[-]				

11	事業名	インフルエンザ補助金			
健康課題との関連	該当なし (これまでの経緯等で実施する事業)				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】 感染症の重篤化予防 【概要】 一般被保険者の方を対象に事業所単位で集団実施した場合に補助を支給		
事業分類	-				
新規・既存区分	既存	対象者	資格 被保険者	対象事業所 全て	性別 男女 年齢 (上限なし)～(上限なし)
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・継続				
			対象者分類 全員		

振り返り	実施状況・時期	平成29年度 実施者数 39,283名			
	成功・推進要因	<ul style="list-style-type: none"> ・実施にあたって、事業所と役割分担をして相互に連携している。 ・一律補助金額支給制度により接種医療機関の選択肢が拡大 ・補助金増額（1000円→2000円） 			
	課題及び阻害要因	・平成27年度からワクチン価格が値上がりしたこと			
予算額	-千円	決算額	78,448千円	評価	3.60%以上
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・接種率向上による感染時時重篤化の予防[-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・医療費の抑制[-]				

12事業名	人間ドック				
健康課題との関連	該当なし（これまでの経緯等で実施する事業）				
予算科目	疾病予防	事業の目的 および概要	【目的】任意型の健診として受診機会を設ける 【概要】生活習慣病健診を受診しなかった被保険者およびけんぽ共同健診を受診しなかった被扶養者に費用の一部補助		
事業分類	-	対象者	資格 被保険者・被扶養者	対象事業所 全て	性別 男女 年齢 40～74 対象者分類 基準該当者
新規・既存区分	既存				
実施主体	1. 健保組合				
実施計画 (平成29年度)	・継続				
振り返り	実施状況・時期	平成29年度 受診者数 1,093名			
	成功・推進要因	・一律の金額の補助金制度にすることにより、どこの医療機関でも受診が可能となり受診機会が増えた			
	課題及び阻害要因	・紙ベースの結果表では処理が煩雑であるため、特定健診結果の電子データ化を促進する			
予算額	-千円	決算額	15,362千円	評価	2.40%以上
事業目標					
アウトプット指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・生活習慣病健診およびけんぽ共同健診を補完するものとして実施[-]				
アウトカム指標	-（【現行値】-【計画値/実績値】平成29年度：-/- 【達成度】-%）・受診者の健康保持[-]				

STEP 4-2 期末評価

事業全体の目的と目標の確認

事業全体の目的	特定保健指導の拡大
事業全体の目標	対象者を拡大し、実施率10%以上を目指し、生活習慣病を未然に防止する。

健康課題ごとの振り返り

1	ア. 被扶養者の特定健診受診率が、対象となる全ての年代で被保険者を下回っている。 イ. 業務多忙のため、被保険者への特定保健指導は、実施者数が絞られることがある。 ウ. 初期効果が一巡した後のメタボ該当者の減少率は、遞減する傾向にある。
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	ア. 3.特定健診（被扶養者）・5.けんぽ共同健診の事業は、年々、受診率は増加しているものの、依然として、全ての年代で被保険者を下回っている。
対策の達成度	B	(成功要因や阻害要因など)	イ. 1.特定保健指導の事業は、事業所への働きかけを始めており、実施率5%未満と低いものの、実施者数は少しずつ増加している。 ウ. 4.特定保健指導の事業を実施しているものの、メタボ該当者の減少率を下げる事ができなかった。

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	特定保健指導	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	被保険者および被扶養者への情報提供体制	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	特定健診（被扶養者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	特定保健指導	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
5	けんぽ共同健診	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

2	エ. 疾病分類別一人当たり医療費は「循環器系疾患」、「新生物」、「呼吸器系疾患」などで高い。特に、花粉症が含まれる「呼吸器系疾患」について、被扶養者の一人当たり医療費が15,000円を超えており、最も高い。
---	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

健康課題の解決度	A	評価理由	エ. 1. 後発医薬品の差額通知事業は、年1回実施しているものの、依然として、疾病分類別一人当たり医療費は、「循環器」、「新生物」、「呼吸器系疾患」で高い状況が続いている。
対策の達成度	A	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	後発医薬品の差額通知	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

3	オ. 生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっている。 カ・キ・ク. 男性の半数近くが肥満の状態にある。また、加齢とともに「血圧値」「血糖値」に保健指導基準値以上の者が増加する傾向にある。 ケ・コ・サ. 受診勧奨基準値以上であっても、半数以上が医療機関で受診することなく、放置している。
---	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

健康課題の解決度	B	評価理由	オ. 3. 生活習慣病健診（循環器法定外項目）・4. 生活習慣病健診（胃部検査他）の事業は、受診率は向上しているものの依然として、「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費となっている。
対策の達成度	B	(成功要因や阻害要因など)	カ・キ・ク. 3. 生活習慣病健診（循環器法定外項目）の事業を実施し、2. 健康応援サイト「KENPOS」の事業を導入したものの依然として、男性の半数近くが肥満の状態にあり、さらに、加齢とともに、「血圧値」「血糖値」が保健指導基準値以上の割合が高い状況である。 ケ・コ・サ. 1. 医療費通知事業を年1回（WEBは毎月医療費の状況を更新）実施し、加入者へ医療費の状況について啓発しているものの、依然として受診勧奨基準値以上であっても半数以上が医療機関で受診していない状況である。

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	医療費通知	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	健康応援サイト「KENPOS」	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	生活習慣病健診（循環器法定外項目）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	生活習慣病健診（胃部検査、便潜血検査、腹部超音波検査、肝炎ウイルス検査）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

4	シ・ス・セ. 後発医薬品に関して、被扶養者、特に若年者の使用割合は、被保険者や全国平均よりも低く、40%を下回っている。
---	--------------------------------------------------------------

健康課題の解決度	B	評価理由	シ・ス・セ. 後発医薬品のチラシを生活習慣病・アレルギー薬に絞って送付したが、若年者の使用割合の増加に結びつかなかった。特に子供は自治体で医療費が公費負担となっている場合が多く、後発医薬品より使用実績のある先発医薬品を使用し続ける結果と思われる。
対策の達成度	B	(成功要因や阻害要因など)	

番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度		
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度

健康課題と紐付いていない事業一覧

該当なし（これまでの経緯で実施する事業）									
番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度
1	特定健診（被保険者）	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
2	婦人科検診	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
3	インフルエンザ補助金	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%
4	人間ドック	-	-%	-%	-%	-	-%	-%	-%

該当なし									
番号	事業名	アウトプット指標達成度			アウトカム指標達成度				
		指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度	指標名	平成27年度	平成28年度	平成29年度

第1期のデータヘルス計画への取り組みに対する振り返り

No	設問	回答		評価理由（成功要因や阻害要因など）
		←全くなかった	よくできた→	
1	STEP1-3基本分析において、自組合集団としての健康状態を客観的に可視化出来たか？			健康分布で、40歳以上の男性の半分以上が肥満であることが分析できたが、他組合との比較が不十分であった。
2	STEP2健康課題の抽出において、適切に健康課題を抽出することが出来たか？			サービス業で勤務している社員が多く、生活が不規則になり健康行動につながりにくいと同時に生活習慣が乱れやすい事がわかってきた。
3	STEP2健康課題の抽出において、優先すべき健康課題や対策の方向性を的確に定めることが出来たか？			健康課題と対策の方向性が一部、保健事業とひもづいていなかった。
4	STEP3 保健事業の実施計画において、事業全体の目的や目標を適切に掲げることが出来たか？			生活習慣病に関わる一人当たり医療費では「高血圧症」「糖尿病」「高脂血症」の順に高額な医療費がかかっており、男性の半数近くが肥満の状態にある。そのため、事業全体の目的である特定保健指導の対象者の拡大を設定することができた。
5	STEP3 保健事業の実施計画において、「保健事業の基盤」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？			職場環境整備の立案ができたが、加入者への意識づけについては、具体的な施策の立案に結びつけられなかった。
6	STEP3 保健事業の実施計画において、「個別の事業」に関わる保健事業を適切に立案することが出来たか？			事業計画は健康課題に基づいて概ね立案することができた。
7	STEP4-1 事業報告において、年次の事業進捗やアウトプット、アウトカムを評価することが出来たか？			一般的にアウトプット・アウトカムを設定していなかったことから、一部評価しにくいところがあった。
8	STEP4-1 事業報告を理事会や組合会での報告に活用し、次年度の事業計画に活用することが出来たか？			胃がん検診の受診率が低いことから、胃がんリスク検診の導入を決定した。平成30年2月に理事会・組合会で報告した。

事業全体の達成状況に関する総括（自由記述）